別紙3　点検表記録様式　　様式1（その1）

橋梁名・所在地・管理者名等

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	35° 47′ 54″
				経度	137° 30′ 50″
立間ヶ沢橋 (フリガナ)タチマガサワバシ	村道第38号線	王滝村			

管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件（名称）
王滝村	2016.11.27	河川	無	一般道	三次	

部材単位の診断（各部材毎に最悪値を記入）

点検者	株式会社 長野技研	点検責任者	吉原潤一

点検時に記録					措置後に記録		
部材名		判定区分（Ⅰ～Ⅳ）	変状の種類（Ⅱ以上の場合に記載）	備考（写真番号、位置等が分かるように記載）	措置後の判定区分	変状の種類	措置及び判定実施年月日
上部構造	主桁	Ⅰ					
	横桁						
	床版						
下部構造		Ⅱ	ひびわれ	径間1 下部工 01 写真-7			
支承部		Ⅰ					
その他		Ⅰ					

道路橋毎の健全性の診断（判定区分Ⅰ～Ⅳ）

点検時に記録		措置後に記録	
（判定区分）	（所見等）	（再判定区分）	（再判定実施年月日）
Ⅱ	下部構造にひびわれ、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい。		

全景写真（起点側、終点側を記載すること）

架設年次	橋長	幅員
1985年	9m	3.85m

起点側

終点側

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

状況写真（損傷状況）
〇部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載の
〇写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

下部構造【判定区分：　Ⅱ　】	【判定区分：　　】
写真 7 径間 1 下部構造 01 ひびわれ	
【判定区分：　　】	【判定区分：　　】